



黒斑山は浅間山の隣の山であり、外輪山の一角である。浅間山には1972年と1974年の3月に目指している。74年の時は山スキーで行った。ともに黒斑山近くにテントを張った迄で頂上ははるかに遠かった。日が昇る時刻になると雪が緩んでしまって前に進めなかった。断念したことが正解であった。頂上に登ったのは1977年6月である。黒斑山からカルデラの下降部を経由して登り口に行った。「噴火の恐れがあるので登山禁止」の看板があったが、ペンキも一部分剥がれ落ちており、「昔のことだろう」と思って登ってしまった。頂上の噴火口のあたりでは“ボコッ、ボコッ”という音が聞こえてきてヤバイと思った。噴煙と雲とで周りが見えなかったので、軽井沢側へ降りる予定の道をまだ早すぎると勘違いして火口を一周してしまった。それでも何とか降りることはできた。

今回は女13名、男5名のメンバーである。知った顔は一人もない。安全登山教室と銘打たれたツアーで上村さんが全体のリーダーを務める。毎日新聞旅行からは正清オバサンと浅原ジーサマのコンビである。昨年12月の陣馬山とおんなじだ。

40年前に比べると雪は少なかった。あの時は3月であったからその関係もあるだろう。浅間山が現在は登山禁止になっており、以前より管理体制もしっかりしているので、ごまかして登ってしまうことも不可能なようで、黒斑山へ登れば浅間山に登ったというような便宜が100名山信仰者に図られている。だから登山客も多いのかも知れない。山に興味のない人たちからみれば“バッカミタイ”と映ることであろう。しかし山が好きな人たちにとっては“100名山達成者”と名刺の肩書きにも書き込みたいところであろう。